

学校評価(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	・生徒評価はAで94.4%の生徒が肯定的意見である。学校生活について生き生きと生活している生徒が多い。 ・保護者、職員ともH29より評価平均が0.23ポイント低下している。分掌組織の活性化をすすめ、チーム三中として、より組織的、計画的に教育活動を実施する。 ・学校教育目標達成に向けた取組を広く公表するとともに、生徒一人一人が輝き、感動と笑顔あふれる学校を実現する。	A	・組織的に取り組んでいると思われる。 ・子供たちが「先生方が協力して取り組んでいる」と感じていることが素晴らしいと思います。 ・全学年で取り組んでいることが良い。 ・生徒の自己評価が良かったことが評価できる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	・職員評価の肯定的意見がH29より、0.09ポイント低下したが、生徒の肯定的意見は94.6%と0.8ポイント上昇した。教職員の危機管理体制や安全・安心な学校づくりの取組に対する意識も向上し、生徒は安心して学校生活を過ごしている。PTA美化活動では、教職員、保護者だけでなく地域の力を借りて、学校の環境整備を実施した。 ・みつばちメールへの登録者が87%まで向上した。 ・子供達が安心して通える学校づくりを進めるために、学校、家庭、地域が連携した取組を一層推進していく必要がある。	A	・交通安全教室を開き、交通安全について体験的に学んでいる。 ・メール配信が素早く速やかに連携できている。 ・ホームページでの情報公開を実施している。 ・授業においても詐欺被害について取り扱っていた。 ・学校内外での危機管理を整えていると感じた。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・生徒の肯定的意見は、92.9%、保護者は85.2%であるが、昨年度より4.21ポイント上昇している。 ・県学調では、全学年、全教科で県平均を上回ることができた。特に中2数、英では、7ポイント前後上回っている。 ・引き続き基礎学力を定着させ、「自分の考えを持つ」表現し交流する「活用する」学習を積極的に推進する。	A	・県平均を上回る成績を収めている。 ・県学調で、平均を上回ったことが評価できる。 ・学力が上がっているの、皆頑張っていると思う。 ・授業では、発言しやすい雰囲気を作っていた。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・生徒の肯定的意見は昨年度と変わらず93.6%だったが、保護者は1.1ポイント上昇し79.8%となった。 ・全教師で「授業の5か条」に基づいた授業改善を実施したことが肯定的意見の向上につながっている。 ・道徳の教科化に向けて、教員が生徒役となつての模擬授業による研修を実施するなど、先を見通した授業改善を実施している。 ・校内研修では、本校の生徒の実態に基づいた学校課題を設定し、より充実させることで、更なる授業改善を図る。	A	・先生方が、個々の子どもの良いところを認めている。 ・「授業の5か条」という方針を学校で示し、主体的・対話的で深い学びが進むように努力していた。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・生徒は86.4%、保護者は92.2%が肯定的意見を回答しており、生徒の肯定感はH29より5.9ポイント向上している。 ・生徒は規律ある態度を身に付け、非常に落ち着いて生活ができている。 ・教職員は、より高いレベルで、三中の掲げる「自主自立の態度」の育成を進めている。	A	・生徒、保護者の肯定的評価が90%以上有る。 ・先生の生徒への思いやりがよくわかる。 ・自主性が身に付いているように思える。 ・意識が向上した。ほとんどの生徒が学校訪問の際にあいさつをしてくれる。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・職員、保護者、生徒評価とも肯定的意見がH29よりわずかではあるが減少している。 ・毎週教育相談部会、生徒指導部会を開き各学年の情報交換と指導方針、指導方法について確認し、情報の共有化を図った。 ・朝の活動を大切に、生徒が自分たちで静かに読書を始められる。朝読書指導を行った結果、落ち着いた生活を送れるようになった。 ・授業規律「三中スタンダード」を確認し、共通理解のもと共通指導を行う。	A	・朝読書が、授業が始まる前の落ち着いた環境を作っているように思える。 ・三中の伝統である自主・自立の意識が向上した。 ・民生委員との懇談会で、もう少し踏み込んだ話ができて、情報交換できたらいいと思う。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	・職員、保護者、生徒がA評価。体育の授業や部活動、昼休みの校庭、体育館開放等、多くの活動場面を利用して効果的に運動量を確保することができた。 ・体育授業で、準備運動時の工夫や体づくり運動の確保、課題発見能力の育成等を通して意欲的に運動に取り組むことができるような生徒を育成している。 ・体育館の部活では、場所と時間の確保が課題である。健康、安全に配慮しつつ、効果的、効率的な指導法の工夫改善を進める。	A	・生徒、保護者の肯定的評価が90%以上有る。 ・部活動の場所を確保するために、小学校の体育館を借りているのは良い取組である。 ・熱心に部活動に取り組む、成果を上げている。 ・体育大会でも意欲的に、楽しみながら励む姿が見られた。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・体育科を中心に体力向上策を立て、新体力テスト等への意欲的な取組を進め、計画的に取り組んでいる。 ・部活動指導では、各部の課題を共通認識した上で、部活ごとに工夫した練習をおこない、成果を残している。 ・体力向上コーナーやランキングの掲示等を活用し、生徒の頑張りを示すことで、生徒の意欲を向上させて課題解決に取り組む。	A	・ランキング掲示によるモチベーションの向上。 ・生徒の意欲を向上させ、頑張りを目に見える形にする取組が良い。 ・体育大会でのクラス対抗大縄飛びの練習は、体力もつくり、生徒と担任教師がまとまる良い機会である。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・職員、生徒、保護者ともに肯定的意見が減少している。 ・学校行事の際、PTAを中心に取組への協力をいただいている。地域団体も含めた活動も実施することができている。 ・今年度は夏季休業の短縮に伴い、PTAとともに開催している行事の日程が昨年度と異なることが多かった。今後、定着を図る行事と、見直しを進める行事を検討していく。	A	・PTAとの連携が良好である。 ・PTAとは協力しているが、地域とのつながりはもっとあって良いのではないだろうか。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・職員、生徒、保護者ともに肯定的意見が減少している。 ・通学路安全点検や環境美化活動を保護者(PTA本部)と協力して実施した。今後も状況に応じて安全指導・健全育成を推進する。 ・PTAや地域の方々が積極的に参加できる取組を工夫し、学校・家庭・地域が連携して安心・安全な学校づくりを一層推進していく。 ・メール配信や学校ホームページ等、学校からの情報発信を丁寧に行い、より一層の協力体制の構築をおこなっていく。	A	・交通安全教室を年2回実施している。 ・自転車事故に対する保険加入を促している。 ・保護者の方で、交通安全指導がもっと必要だと感じる。 ・校区内の危険箇所については、警察とも連携した方がいいのではないかと感じた。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満